

資料 1

2011年度 教職課程活動報告

古屋喜美代

本年度は165名の学生が母校を中心に教育実習を行った。教職課程を履修する学生数は表3、表4のとおりである。採用試験合格者は27名である(表6)。本学では、学内での学修だけでなく、授業参観、介護等体験、学校ボランティア(希望者)といった学外での学修を積んだ上で学生が教育実習に臨むよう指導を行っている。また、教職課程として学校ボランティア活動を通して地域の学校との連携を深めること、卒業生とつながりながら活動することをめざしている。この点につき、7月の学校ボランティア協力校との情報交換会の開催(横浜キャンパス)、8月の教員の免許状更新講習(本学第2回目)の実施、11月の教育実習指導協力校との懇談会、1月の卒業生教員を含めた教育研究交流会と、年間を通して努力を行っている。

さらに、本年度は理工再構築に伴う教職課程認可申請を行い、中央教育審議会による実地視察を受けた。実地視察は本学教職課程として初めての経験であり、全学部学科を挙げ教職課程のあり方を見直すこととなった。

○理工再構築に伴う教職課程認可申請

理学部については情報科学科は「数学」と「情報」、数理・物理学科(新)は「数学」と「理科」、工学部については情報システム創成学科は「数学」と「情報」、経営工学科(新)は「数学」と「工業」を申請し認可を受けた。

○中央教育審議会による実地視察

10月6日に実施され、学長以下全学部長が列席するなかで教職課程に関する質疑が行われた。午後は施設見学、授業見学が行われ、講評が行われた。教職課程に対する取り組みについては、本学が熱意をもって取り組んでいることが評価され、とりわけ学校ボランティアを今後も充実させていくことを求められた。ただし、シラバス、カリキュラム上の問題点が何点か指摘された。

○第2回目の更新講習「必修・教育の最新事情」と「選択・生徒指導」

教職課程では「必修」の講習を担い、岩澤啓子特任教授が「選択」の一つとして「生徒指導」の講習を実施した。いずれも定員を充足し、大学というフィールドで学び直すことにおおむね肯定的評価を得られた。他に「選択」として、外国語学部、理学部が2講習を実施した。

○岩澤先生最終講義および教育研究交流会

岩澤先生は横浜市立中学校で教鞭をとられた後、本学教職課程で6年間ご指導いただいた。教育現場の最新の動向を踏まえ、学生に教育実践力を形成するとともに、近隣の学校との関係形成にもご尽力いただいた。「生徒指導論」の授業では、実践に役立つ生徒理解の視点と具体的対応を伝えていただき、「総合演習」では学生を中学校に引率して、教育現場の中でご指導いただくことも多かった。教員を目指す学生を

対象に、授業外の「教師塾」という特別講座で採用試験対策指導も6年間実施していただいた。この間岩澤先生のご指導で教員となっていった卒業生も多い。

そこで、本年度教育研究交流会は岩澤先生の最終講義（教職の世界～「人とかかわることが好き」のスイッチを押そう）を行い、学生、卒業生とともに、先生からの学びをふり返りこれからの教育に活かすための会とした。